

(3) 特 設 展

① 特設展「辻嵐外 甲州の近世俳人」開催要項

期 間 平成28年4月29日（金・祝）～6月19日（日）

趣 旨 辻嵐外は、江戸後期の甲州俳壇を代表する俳人である。1770（明和7）年、越前の国敦賀（現在の福井県敦賀市）の呉服商の家に生まれ、1795（寛政7）年、京の高桑蘭更の紹介により藤田村（現 南アルプス市）の俳人五味可都里を頼って甲州に移り住んだ。以後、落合村（現南アルプス市）の新津不金ら甲州の人々の庇護のもとで何度か住まいを移しながら活動を続け、1845（弘化2）年、75歳で歿した。別号に「六庵」「南無庵」「北亭」などがある。超俗洒脱の人として知られ「甲斐の山八先生」と称された。画にも優れ、味わい深い書画を多く遺したことで知られている。

多くの門弟の中の主な十人は後に「嵐外十哲」と呼ばれ、さらにその門下の人々が幕末から明治初期へとつながる山梨の近代俳句の隆盛の礎を担った。大正・昭和にかけて活躍した俳人、飯田蛇笏は、近代の視点から見た近世俳諧の意義を取り上げた論考の中で嵐外に言及し、飯田龍太は、黒坂峠に嵐外十哲のひとり北野道等の句碑があることにふれ、その作品への愛着を随筆に記している。

本展は、文学館がこれまで収集した資料と共に、県内に残る嵐外の書の数々を展示、現代の目からみても親しみと共感を呼ぶ嵐外の作品と書画の魅力を紹介する。

展 示 資 料 一 覧

*会期中、一部展示替えをした。

〈前期〉4月29日（金・祝）～5月22日（日） 〈後期〉5月24日（火）～6月19日（日）

*このほか、6月7日（火）～19日（日）の期間のみ、展示する資料があった。

I 敦賀から甲州へ

文谷画 嵐外像、嵐外「不尽の山」句文 刷物 軸装 個人蔵

五味可都里「大方の月夜にあへり梅の花」 軸装

『なゝし土里』五味可都里編 1798（寛政10）年 山梨県立博物館蔵

『にふなひ鳥』北原台珉編 1799（寛政11）年8月 山梨県立博物館蔵

「俳諧歌仙集」菊嶋竹鷺写 1854（嘉永7）年7月

『花の跡』五味蟹守編 1818（文政元）年8月 個人蔵

II 嵐外十二ヶ月

辻嵐外 自画賛（一月）「蓬萊やよし野の山もかざりたき」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（二月）「鶯の啼木ばかりの二月かな」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（三月）「雛ひとつ鏡のうちにかざりたき」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（四月）「する墨の香に木の匂ふ卯月かな」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（五月）「狗子も育つ幟のあらしかな」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（六月）「鞆で居て高い足駄や夕すゝみ」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（七月）「七夕や四辻四つに天の川」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（八月）「名月や風もかげもつ海の上」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（九月）「菊の花匂はんとする香ではなし」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（十月）「蛭子講下戸と化物坐にはなし」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（十一月）「霜月は何もまじらぬ寒さかな」 軸装 個人蔵

辻嵐外 自画賛（十二月）「つかつかと水に雪降師走かな」 軸装 個人蔵

辻嵐外 北原大人宛書簡 年不明3月11日 個人蔵

辻嵐外 北原伊兵衛宛書簡 年不明3月28日 個人蔵

辻嵐外 戯文 個人蔵

Ⅲ 嵐外と安楽林社

- 辻嵐外 回状 年不明3月14日 個人蔵
辻嵐外 新津葛斎宛書簡 年月不明閏9日 個人蔵
辻嵐外 自画賛「降までをおちて見せけり春の雨」軸装〈前期展示〉個人蔵
新津五通「歌仙集」1809（文化6）年 個人蔵
辻嵐外 自画賛「名月や世を臆病に草の宿」軸装〈後期展示〉個人蔵

Ⅳ 書画の魅力

- 辻嵐外 自画賛「初しぐれ掃て箒をおかぬうち」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「つかつかと水に雪降師走かな」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「天つちをはなれてふじの夜の明る」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「おもしろき世を一はいにふじの山」軸装〈6月5日までの展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「元日のたまるまゝ也ふじの山」軸装〈6月7日～19日の期間展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「梅の花けふをきのふに一日づゝ」軸装〈前期展示〉
辻嵐外 自画賛「ゆふだちや骸の垢のぬける音」軸装〈前期展示〉
辻嵐外 自画賛「春の日や小町も婆になるはなし」軸装〈後期展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「咲みちて山こそたらね山さくら」軸装〈後期展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「佐保姫のすて草のけし咲にけり」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「朝白や露より先にいさましき」軸装〈前期展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「菊一はい垣根一はい菊の露」軸装〈後期展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「落るだけおちる場有て桐一葉」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「元日や朔日の日は翌日あらむ」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「きかさじとするはつ声か子規」軸装〈6月5日までの展示〉
辻嵐外 自画賛「春の鶴けふもけふもと元日歟」軸装〈6月7日～19日の期間展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「鹿の角おのれは捨てた心やら」軸装〈前期展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「搔よせてかぎりしられず田にし売」軸装〈前期展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「華の外に花のありけり花の宿」軸装〈後期展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「買ずともくれもしそふな生海鼠かな」軸装〈後期展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「春の風吹にこたへる木草哉」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「ならの京柳のしづく揃ひけり」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「九日の十日に遠し朧月」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「踊子の貞にすらばやしのぶ草」軸装〈6月5日までの展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「煎豆も花の咲かと春の雨」軸装〈6月7日～19日の期間展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「加茂川を見たか呑だか啼ちどり」軸装〈6月5日までの展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「七小町一夜砧も七処」軸装〈6月5日までの展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「ふじの山売らば買ふ迄蛭子講」軸装〈6月7日～19日の期間展示〉個人蔵
辻嵐外 自画賛「秋の田も秋の畠も此ふくろ」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「此君の鯨もつれるか見て居たし」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「亀も子よ鶴も娘よ君の春」軸装 個人蔵
辻嵐外 自画賛「花鳥のきげんのたまる袋かな」軸装 個人蔵
辻嵐外 画帖 1813（文化10）年 個人蔵
辻嵐外「月と花」句文自画賛懐紙
辻嵐外「汝も亦七墓めぐれ小夜千鳥」短冊 個人蔵
辻嵐外 発句書付「初雪に帷子着たる座興かな」他
『小殿原』竹亭一所編 1843（天保14）年 個人蔵
『藤窟集』竹下草丸編 1835（天保6）年 個人蔵

V 嵐外十哲

北野道等 四季発句屏風

晋画 竹応賛「望事なくすゝしや空の色」軸装

『俳諧類題集』初編上・下 早乙女通志編 1866（慶応2）年 2冊

『俳諧類題集』二編上・下 早乙女通志編 1866（慶応2）年 2冊 個人蔵

『やま霞』布能文谷編 1833（天保4）年

『東行集』小林欽哉編 1847（弘化4）年

河野可転「水おとの寺に仏はうまれけり」短冊〈6月7日～19日の期間展示〉個人蔵

新田雲里「老の来る春と気をつく二日かな」短冊

早乙女通志「踏まどふ木の根木の根や苔清水」短冊

早乙女通志「桐ひと葉落したやうにおちにけり」短冊

早乙女通志「初冬や藪木のおくの濃もみち」短冊

VI 晩年と歿後

辻嵐外「月も赤」句文懐紙 1843（天保14）年8月9日 個人蔵

『猿の面』嵐外編 1842（天保13）年 山梨県立博物館蔵

『嵐外発句集』乾・坤 安楽林社編 1848（嘉永元）年 2冊 山梨県立博物館蔵

『わかれ霜』安楽林社編 1846（弘化3）年 山梨県立博物館蔵

『花のちり』於曾此一編 1867（慶応3）年 山梨県立博物館蔵

『三翁俳諧集』浅川寅平編集兼発行人 1918（大正7）年9月

『風月帖』小澤眠石編 1902（明治35）年2月 山梨県立博物館蔵

「ホトトギス」第11号 1897（明治30）年11月30日

飯田蛇笏『俳句文学の秋』1939（昭和14）年9月 人文書院

「俳句研究」第7巻第9号 1940（昭和15）年9月 個人蔵



② 「宮沢賢治 保阪嘉内への手紙」

期 間 平成28年7月9日（土）～8月28日（日）

前期 7月9日（土）～7月31日（日） 後期 8月2日（火）～8月28日（日）

趣 旨 詩、童話に独自の世界を切り開いた宮沢賢治（1896～1933 岩手県生まれ）。

無二の親友であった山梨県韮崎市出身の保阪嘉内（1896～1937）との交友を表す73点の手紙が、平成27年当館に寄託されました。寄託後、初の展覧会として全73通を公開し、賢治と嘉内の生涯をたどり、2人の友情を紹介します。

展 示 資 料 一 覧

I 賢治の故郷 嘉内の故郷

- 甲府中学「校友会雑誌」第35号 1914（大正3）年7月 *
- 保阪嘉内 弁論原稿「農業と人と」1914（大正3）年9月 *
- 保阪嘉内 弁論原稿「吾等の最大幸福は何なるか」1915（大正4）年1月 *
- 保阪嘉内「スケッチブック」1910（明治43）年 *
- 保阪嘉内「スケッチブック」1913（大正2）年 *
- 保阪嘉内「スケッチブック」1914（大正3）年 *
- 保阪嘉内「スケッチブック」1915（大正4）年9月 *
- 保阪嘉内「スケッチブック」1916（大正5）年 *
- 保阪嘉内「スケッチブック」1917（大正6）年 *
- 保阪嘉内「秩父甘楽地方地質略図」1917（大正6）年 *

II 賢治 嘉内への手紙

- 保阪嘉内 戯曲「人間のもだえ」原稿 1916（大正5）年 *
- 保阪嘉内 ノート「文象花崗岩 全」1917（大正6）年10～12月 *
- 保阪嘉内 ノート「我は独り」1917（大正6）年 *
- 保阪嘉内「短歌日記」1916（大正5）年 *
- 「盛岡高等農林学校一覧」1929（昭和4）年8月15日 盛岡高等農林学校
- 「アザリア」第2号 1917（大正6）年7月18日 *
- 「アザリア」第4号 1917（大正6）年12月16日 *
- 「アザリア」第5号 1918（大正7）年2月10日 *
- 「アザリア」第6号（終刊号）1918（大正7）年6月 *
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1916（大正5）年8月2日消印
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛書簡 1916（大正5）年8月17日消印
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1916（大正5）年9月2日消印
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1916（大正5）年9月5日消印 前期
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1916（大正5）年9月6日 後期
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1917（大正6）年1月1日消印
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1917（大正6）年1月4日消印 前期
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1917（大正6）年1月7日消印 後期
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1917（大正6）年4月2日消印
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1917（大正6）年7月29日消印
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1917（大正6）年8月28日
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1917（大正6）年8月31日
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1917（大正6）年9月2日消印
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1917（大正6）年9月3日消印
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1918（大正7）年1月1日
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛書簡 1918（大正7）年3月13日および14日頃
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛書簡 1918（大正7）年3月20日前後（推定）後期
- 宮沢賢治 保阪嘉内宛葉書 1918（大正7）年3月29日消印 前期

宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1918 (大正7)	年4月20日	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1918 (大正7)	年4月26日消印	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1918 (大正7)	年4月30日	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年5月19日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年5月19日	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年6月20日前後 (推定)	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年6月26日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年6月27日	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1918 (大正7)	年7月17日消印	前期
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1918 (大正7)	年7月24日消印	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年7月25日	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年8月 (推定)	前期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年9月27日	前期
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1918 (大正7)	年10月1日消印	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年12月初め (推定)	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年12月10日	前後 (推定)
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1918 (大正7)	年12月16日	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年12月31日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1918 (大正7)	年春頃~1919 (大正8)	年春頃以前 (推定)
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1919 (大正8)	年4月 (推定)	前期
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1919 (大正8)	年5月2日	前期
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1919 (大正8)	年5月日不明消印	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1919 (大正8)	年7月 (推定)	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1919 (大正8)	年8月上旬 (推定)	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1919 (大正8)	年8月20日前後 (推定)	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1919 (大正8)	年8月30日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1919 (大正8)	年9月21日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1919 (大正8)	年12月23日 (消印)	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1920 (大正9)	年2月頃 (推定)	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1920 (大正9)	年3月頃 (推定)	前期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1920 (大正9)	年4月 (推定)	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1920 (大正9)	年5月2日	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1920 (大正9)	年5月 (推定)	前期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1920 (大正9)	年6月~7月 (推定)	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1920 (大正9)	年7月22日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1920 (大正9)	年7月末~8月初め (推定)	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1920 (大正9)	年8月14日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1920 (大正9)	年8月17日消印	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1920 (大正9)	年9月4日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1920 (大正9)	年9月23日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1920 (大正9)	年12月2日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1920 (大正9)	年12月上旬 (推定)	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1921 (大正10)	年1月中旬 (推定)	前期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1921 (大正10)	年1月中旬 (推定)	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1921 (大正10)	年1月25日消印	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1921 (大正10)	年1月25日	前期
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1921 (大正10)	年1月28日	後期
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1921 (大正10)	年1月30日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛書簡	1921 (大正10)	年2月上旬 (推定)	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1921 (大正10)	年2月18日	
宮沢賢治	保阪嘉内宛葉書	1921 (大正10)	年5月4日	後期

宮沢賢治 保阪嘉内宛書簡 1921 (大正10) 年7月3日 前期
 宮沢賢治 保阪嘉内宛書簡 1921 (大正10) 年10月13日 後期
 宮沢賢治 保阪嘉内宛書簡 1921 (大正10) 年12月 (推定)
 宮沢賢治 保阪嘉内宛書簡 1925 (大正14) 年6月25日
 国柱会機関誌「天業民報」の購読案内と払込票 *

保阪嘉内 1921 (大正10) 年日記 *

賢治から嘉内に贈られた詩集『春と修羅』1924 (大正13) 年4月 *

島地大等 訳『漢和対照妙法蓮華経』1914 (大正3) 年8月 明治書院 *

宮沢賢治 童話集『注文の多い料理店』1924 (大正13) 年12月 杜陵出版部・東京光原社

村松舜祐 保阪善作宛書簡 1918 (大正7) 年4月28日 後期 *

盛岡高等農林学校からの保阪善作宛て文書 1918 (大正7) 年4月29日 前期 *

河本義行 保阪嘉内宛書簡 1918 (大正7) 年5月13日 後期 *

河本義行 保阪嘉内宛葉書 1918 (大正7) 年7月9日 後期 *

小菅健吉 保阪嘉内宛葉書 1919 (大正8) 年5月9日消印 前期 *

河本義行 保阪嘉内宛葉書 1925 (大正14) 年1月5日消印 前期 *

Ⅲ 賢治の夢 嘉内の夢

「木喰上人研究」第1号 1925 (大正14) 年3月 *

「木喰上人研究」第2号 1925 (大正14) 年4月 *

「木喰上人研究」第3号 1925 (大正14) 年6月 *

「木喰上人研究」第4号 1925 (大正14) 年8月 *

「木喰上人研究」第5号 1925 (大正14) 年12月 *

「木喰上人研究」特別号 1925 (大正14) 年4月 *

「木喰五行上人略伝」1925 (大正14) 年8月 *

「木喰上人和歌選集」1926 (大正15) 年1月 *

日本青年協会主催 第3回青年訓練所指導員講習終了証書 1930 (昭和5) 年9月30日 *

保阪庸夫・小沢俊郎編著『宮澤賢治 友への手紙』1968 (昭和43) 年6月 筑摩書房

Kenji Miyazawa

賢治自筆の手紙73通を公開

詩、童話に独自の世界を切り開いた宮沢賢治。山梨県出身の親友・保阪嘉内宛てた73通の手紙から、二人の生涯と友情をたどります。

あなごころをこぼれさすたのびたてをす。あなごころをこぼれさすたのびたてをす。

特設展

宮沢賢治

保阪嘉内への手紙

2016年
7月9日(土)
→ 8月28日(日)

山梨県立文学館
Yamanashi Prefectural Museum of Literature

Kanai Hosaka

山梨県立文学館 1190(山梨県) 7月9日(土) 1190(山梨県) 8月28日(日) 山梨県立文学館 1190(山梨県) 7月9日(土) 1190(山梨県) 8月28日(日) 山梨県立文学館 1190(山梨県) 7月9日(土) 1190(山梨県) 8月28日(日)



③ 新収蔵品展 直筆に見る作家のリアル

期 間 平成29年1月21日（土）～3月20日（月・祝）

趣 旨 平成28年に新たに収蔵した資料を中心に展示します。

また、第24回やまなし文学賞小説部門入賞作が新聞掲載された際の挿絵原画を、あわせて展示します。

展 示 資 料 一 覧

- 井伏鱒二 熊王徳平あて葉書 1947（昭和22）年 月不明28日
太宰治 熊王徳平あて葉書 1946（昭和21）年5月13日
堀内幸枝 熊王徳平あて葉書 1977（昭和52）年11月8日
八木義徳 熊王徳平あて書簡 1970（昭和45）年3月24日
芥川龍之介 菅虎雄あて書簡 1914（大正3）年8月6日
佐佐木茂索 具楽軒日記 1945（昭和20）年7月5日～同年7月14日
佐佐木茂索 具楽軒日記 1946（昭和21）年3月19日～3月22日
ささきふさ「今のお訊ねも阿蘇噴火口に就いて」原稿
ささきふさ「三段の庭を跋涉し尽して」原稿
飯田蛇笏「さわやかに日のさしそむる山路哉」軸装
飯田蛇笏「桔梗や又雨返す峠口」軸装
石原舟月「新茶して樟の花明に住ひけり」短冊
石原舟月「高汐の日の座をちかみ冬椿」短冊
中川宋淵「夕月の光を得つゝ寺もみち」短冊
飯田蛇笏「春蘭をくしけづりかく落葉かな」軸装
田中鬼骨「胸ふかきまでしぐれくる谷の中」短冊
大井雅人「山を去る顔にかすかに夕日の熱」短冊
飯田龍太「あるときはおたまじやくしが雲の中」軸装
飯田龍太「ゆく夏のいく山越えて夕日去る」短冊
飯田龍太「田をうつるたびに北風強き谷」色紙
山田藍々「苦をもる舟の火影も夜寒かな」軸装
西田幾多郎「七里濱入る日漂ふ波の上にいづの山々果し知らずも」
西田幾多郎「満城流水香」額装
佐藤春夫「杏さくさひしき田舎川そひに家をちこち入日さし人けもなくて麦畑にねむる牛あり」軸装
矢野峰人 村松定史あて葉書 1980（昭和55）年9月6日
矢野峰人 村松定史あて葉書 1980（昭和55）年9月6日
井伏鱒二 村松志孝あて書簡 年月不明10月4日
辻邦生 村松定孝あて年賀状 1965（昭和40）年1月1日
辻邦生 村松定孝あて年賀状 1966（昭和41）年1月1日
辻邦生 村松定史あて年賀状 1966（昭和41）年1月1日
辻邦生 村松定史あて年賀状 1968（昭和43）年1月1日
渡辺義雄撮影「みち草」の店内 のれんと椅子 写真
渡辺義雄撮影「みち草」の店内 カウンター 写真
ハモニカ横丁 案内図
ベン・シノハラ 画新宿「みち草」周辺
竹久夢二ほか絵「みち草」マッチ箱 スタンプ
草野心平画「小林梅」
草野心平「みち草」お品書き
草野心平筆「みちくさ」看板

談笑する文士たち 写真（草野心平、保高みさ子、保高德蔵、青野季吉）
「みち草」前にて 写真（田辺茂一、小林梅、外村繁）
草野心平「みちくさ」題字
草野心平「乾杯」色紙
内藤鳴雪「二君には仕申さぬ紙衣哉」画色紙
白井喬二／筆 k a n d a 竹雄／画「野性天を仰ぐ」色紙
鈴木信太郎「東山千栄子『桜の園』ラネーフスカヤ夫人」
上林暁「みち草」にて 写真
朝鮮第二十二部隊小西班 写真 1943（昭和18）年12月
田辺茂一「みち草」にて 写真
須山計一画「木曾妻籠宿」色紙
伊達圭次画「セキセイインコ」色紙
芥川龍之介 真木珧あて書簡 1920（大正9）年1月11日
井伏鱒二と「みち草」の女将・小林梅 写真
井伏鱒二ほか 阿佐ヶ谷会寄せ書き「為みち草」
井伏鱒二ほか「みち草十年会」芳名帳 1958（昭和33）年4月18日
白須はるみ画「彩りの郷にて」挿絵原画
西沢武徳画「風の町」挿絵原画
志村さとみ画「山霊観音」挿絵原画
前田晁「坪内先生の温情」原稿
前田晁「『文章世界』と私」原稿
前田晁「みにくいあひるの子」原稿
前田晁旧蔵 窪田空穂家族写真 1937（昭和12）年3月
窪田空穂「冬木立つゝきかさなり奥しらす夕日ほの赤く空よりなかる」色紙
木々高太郎「ねむり妻」原稿
秋山秋紅蓼「花はぎつしり咲いてあかつき」軸装
秋山秋紅蓼 蜘蛛・桔梗画扇面
秋山秋紅蓼「山の桜が谷へちりいまも古里である」額装
秋山秋紅蓼「秋空のあのやまもこの山もふるさと」軸装
秋山秋紅蓼「初日まともたゞ忘却の時間の中」短冊
秋山秋紅蓼「新茶ふくみてみどりの朝を身にする」短冊
秋山秋紅蓼 萩画短冊
秋山秋紅蓼「もう月がある五日の月は木の中」短冊
秋山秋紅蓼「富士が秋である田の道へ出る裏のみち」短冊
竹内勇太郎「女侠曼荼羅」メモ
竹内勇太郎「赤帽かあちゃん 第41回」台本原稿
竹内勇太郎「赤帽かあちゃん 第6回～8回」台本
竹内勇太郎「三匹の侍 義賊故郷に帰る」台本原稿
竹内勇太郎「三匹の侍 偽ものまかり通る」台本
竹内勇太郎「山本勘助」原稿
竹内勇太郎「赤胴鈴之助（最終回）謎の絵図の巻」台本
竹内勇太郎「明治パラダイス 樋口一葉考」台本原稿
竹内勇太郎「明治パラダイス 樋口一葉考」台本
竹内勇太郎「利休年譜」
竹内勇太郎「千利休」原稿
今川徳三「武田信玄」原稿
今川徳三「近藤勇」原稿
子母澤寛 今川徳三あて書簡 1965（昭和40）年1月20日

佐藤佐太郎「山茶花の老木はくれぬちれる花めぐりの砂の白きゆふぐれ」色紙

佐藤佐太郎「ある時は日のまともにて白梅の最勝の白しばし輝く」色紙

岡井隆「伊太利抄」扇子

新収蔵品展

観覧料 無料

直筆に見る作家のリアル

いいたたごつ あくたがわりあうのすけ いんせまきじ くさのしんべい ださいおさむ
飯田蛇笏・芥川龍之介・井伏鱒二・草野心平・太宰治 ほか

文学者の素顔が見える直筆資料を紹介します。



八月六日
芥川龍之介



芥川龍之介



井伏鱒二は小説
『スチム』マツ子編



名から草野心平 伊島みどり
保高徳蔵 岡野季吉



文壇「スチム」の書房 撮影 逢坂義典
1945年（昭和20）年に高円寺の盛館に建てられ、その後
新館に遷移した。小林竜が店を切り盛りし、多くの文士から
が訪れた。

2017年
1月21日(土) - 3月20日(月・祝)

山梨県立文学館

休館日:月曜日 ※3月20日は開館

〒400-0065 山梨県甲府市買川一丁目35
TEL 055-235-8080 FAX 055-226-9032
<http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

